

淋菌感染症

➤ 淋菌感染症とは？

性感染症のうちクラミジア感染症とともに多い病気で、クラミジア感染を合併している場合もあります（20～30%）。1回の性行為で感染する確率は30%とも言われており、感染してから2～7日の潜伏期間を経て発症します。

淋菌では複数の抗菌薬に対する耐性化が問題となっています。

➤ 症状

女性の場合：

帯下の増量や不正出血が起こりますが、無症状のことが多いです。

クラミジア感染症と同様に、子宮頸管炎から卵管炎、骨盤腹膜炎、急性肝周囲炎を起こし、不妊の原因となります。また妊娠中に感染すると分娩時に赤ちゃんに感染して結膜炎を起こします。

男性の場合：

クラミジア感染では無症状のことが多いのに対し、淋菌感染では排尿痛、多量の膿状の尿道分泌物が出現します。副睾丸炎になると発熱、陰囊の腫大と疼痛が出ることが多く、歩行が困難になることもあります。感染が長期になると精巣上体の癒着により無精子症となることもあります。

➤ 検査法

女性では子宮頸管の粘液、男性では尿や精液中の淋菌のDNAを増幅して検出します。